

2019年6月11日

三菱UFJ銀行 ソリューションプロダクツ部 プロジェクト環境室 御中  
三菱UFJフィナンシャルグループ コーポレート・コミュニケーション部 御中

認定特定非営利活動法人気候ネットワーク

電源開発および宇部興産による石炭火力発電事業への融資に関するお願いとご質問

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

昨年11月に「貴行における石炭火力発電事業への対応方針に関するお願いとご質問」を送付させていただいた際には、翌（本）年2月に郵送にて返信いただき、有難うございました。ご回答は、残念ながら私達の期待に沿ったものではありませんでしたが、その後、貴行におかれては、本年5月15日に「MUFJ 環境・社会ポリシーフレームワーク」を改定、新設の石炭火力発電所へのファイナンスは、原則として実行しないことを明記されました。気候ネットワークを含む8つの環境団体は脱石炭の取り組み強化を歓迎するとともに、融資の可能性をまだ残していることから、一層の取り組み強化を求める共同声明を発表いたしました。そして本日は、具体的に確認させていただきたいことがあり、ご連絡させていただきました。

ご承知のとおり、山口県宇部市で進められていた石炭火力発電所「西沖の山発電所（仮称）」建設計画は、大阪ガス株式会社が同計画から撤退することを発表しましたが、共同出資者である電源開発株式会社と宇部興産株式会社は、計画変更を行ったうえで新設計画を継続するとしています。特に電源開発は意欲的であり、2019年5月7日付けの電気新聞には『プロジェクトファイナンスはどこの銀行も難しいが、コーポレートファイナンスなら相談できる』とし、『石炭ガス化複合発電（IGCC）の商用化を検討していく』という電源開発 渡部肇史社長の発言が掲載されています。

私たちは、石炭火力発電所に対して、地域の大气汚染の悪化や地球温暖化に対する影響について大きな懸念を抱いており、いかなる発電技術であろうとその建設に強く反対をしています。電源開発の主要銀行である貴行には融資の相談が来る可能性が高いと考えております。仮にそのような場合でも、パリ協定の下で目指される脱炭素社会の実現に向け、石炭火力発電所の建設に繋がる融資は差し控えるご決断をして下さるよう強くお願いいたします。

関連して確認をさせていただきたいことを次頁に取りまとめました。これに対しご回答をいただきたく、お願い申し上げます。また、本件について、ぜひ私たちと対話を持っていただきたくお願いいたします。

お問い合わせ及び、質問へご対応いただける場合の連絡先：

認定特定非営利活動法人気候ネットワーク 東京事務所 担当：桃井

TEL：03-3263-9210 FAX：03-3263-9463 e-mail：tokyo@kikonet.org

末筆ながら、貴行のご発展と、誠実にご対応頂けることを祈念いたします。

敬具

## 確認・質問事項

### 1) 石炭ガス化複合発電 (IGCC) について

IGCC は、国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発気候 (NEDO) が 1983 年から研究開発に着手していますが、30 年以上経た現在でも未だに実証試験段階のままです。貴行における、IGCC の認識をお聞かせ下さい。

### 2) IGCC の石炭ポリシーにおける位置づけについて

現在、広島県豊田郡大崎上島町で稼働中の大崎クールジェンの CO<sub>2</sub> 排出原単位は、0.692kg-CO<sub>2</sub>/kWh ※であり、当初予定していた西沖の山発電所 (超々臨界・USC) の CO<sub>2</sub> 排出原単位 0.748kg-CO<sub>2</sub>/kWh よりは低いものの、最新の LNG 火力の CO<sub>2</sub> 排出原単位 0.375kg に比べると、1.8 倍もあります。こうした状況において、IGCC も「原則新規融資禁止」の位置づけとされるのでしょうか。

※大崎クールジェン株式会社酸素吹石炭ガス化複合発電実証試験発電所設置計画環境影響評価準備書に係る審査書 (平成 24 年 10 月) における「IGCC 実証試験設備」の数値。現在建設中の CO<sub>2</sub> 分離回収設備で CO<sub>2</sub> を大気放出すると排出原単位は 0.775 kg-CO<sub>2</sub>/kWh (同社の環境影響評価書に記載されている数値) となり、貯留技術が確立しなければ USC と同レベルとなります。

### 3) 融資使徒が明らかな場合のコーポレートファイナンスについて

貴行が署名されている赤道原則においては、プロジェクト紐付きのコーポレートローン (ファイナンス) も一定の条件を満たせば、原則が適用となります。西沖の山発電所の事業会社である山口宇部パワーは事業規模/実績からすると、大規模な融資は受けられず、出資者である電源開発 (あるいは宇部興産) によるコーポレートファイナンスによる資金確保が考えられます。もしそのような場合、貴行は審査の際にどのように判断されるのでしょうか。

以上

注：ご回答の有無も含めて、いただいた内容は公開(英訳版も含めて)させていただく可能性があります。